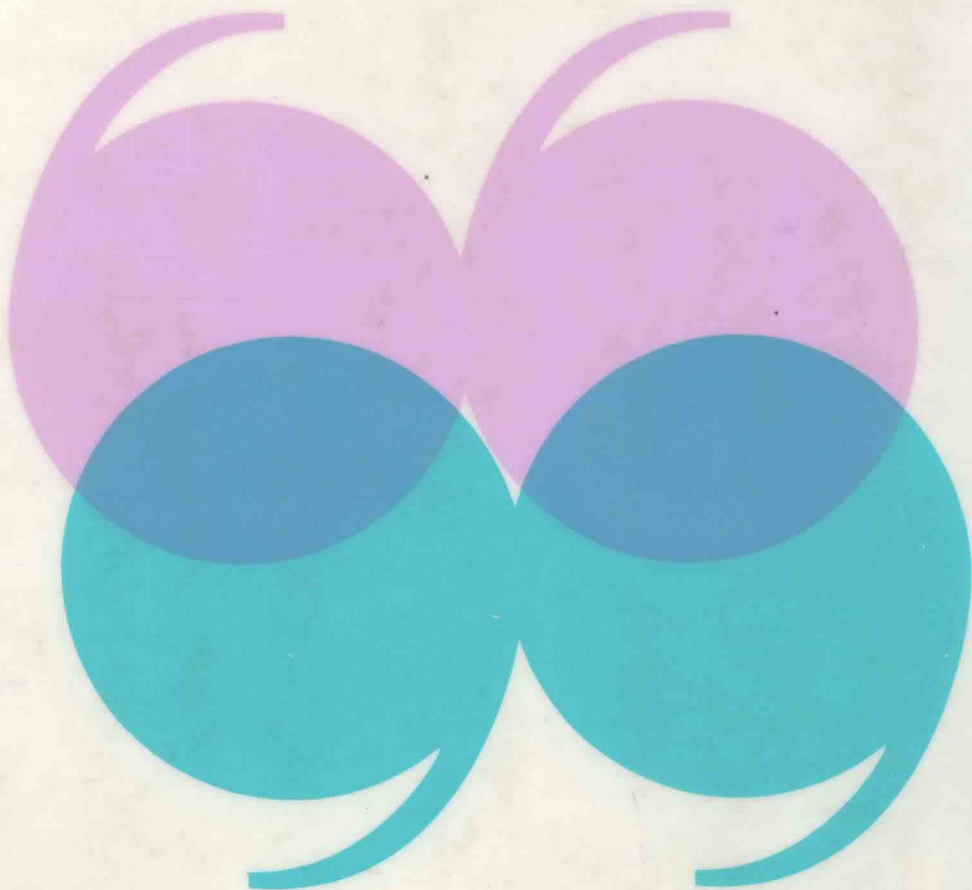


いま!

「日本語ボランティア講座」

日本語ボランティア



東京

日本語ボランティア講座編集委員会 編
笹川平和財団
東京日本語ボランティア・ネットワーク 制
凡人社

表紙デザイン 広瀬薫
本文デザイン 風間デザインルーム
本文イラスト 梅本昇
編集協力 株式会社シーズ

いま！日本語ボランティア

「日本語ボランティア講座」(東京)

1996年7月1日 初版 第1刷発行

編集者 日本語ボランティア講座編集委員会

制作者 笹川平和財団日本語教育プログラム
東京日本語ボランティア・ネットワーク

発行者 田中久光

発行所 株式会社凡人社
東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F
☎03-3472-2240

印刷・製本 壮光舎印刷(株)

定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-89358-352-2 C0081 P1500E

Printed in Japan

「日本語ボランティア講座」

日本語ボランティア

江苏工业学院图书馆
藏书章

東京

日本語ボランティア講座編集委員会 編

笹川平和財団

東京日本語ボランティア・ネットワーク

制作

凡人社

この本は、留学・会社派遣・出稼ぎ・研修などさまざまな目的で日本に在住する外国人たちが少しでも生活しやすいようにと、ボランティアで日本語を教えている「日本語ボランティア」の人たちを対象として、平成6年に東京で開催された「日本語ボランティア講座」を誌上で再現・収録したものです。この講座の目指すところは、日本語ボランティアが日本語教授法、異文化理解、外国人生活者の情報ニーズ、精神的問題などについて一般的な理解を深めるとともに、日本語教室の組織の運営や問題点について話し合い、互いの経験から得た知識を交換できるようにすることでした。

この「日本語ボランティア講座」が提案された平成5年当時は「日本語ボランティア」という存在は現在ほど一般に知られていませんでした。日本語教育とは、正規の学校で勉強する外国人のためのものとして考えられ、教える側にも一定の資格と経験が必要とされていました。しかし、実際には当時も学校に通わない長期滞在の外国人が多数おり、日本語ができないゆえに日常生活や職場、複雑な人間関係、在留資格などでの問題をかかえながら暮らしていたのです。

そうした在住外国人のために、日常の生活に必要な最小限の日本語を教えている有志グループがありました。有志グループ、すなわち日本語ボランティアの人たちは単に日本語学習を手助けするだけにとどまらず、問題や悩みに対して、助言や相談など、さまざまな形で外国

人の支援を行っていました。しかしながら、日本語ボランティアは、組織やプログラムなどないままに、とにかく困っている人を助けたいという気持ちから始めた人が多く、徐々に学習者のニーズに対応しきれなくなったり、教材の選択や教授法に行き詰まったり、アドバイスをしてくれる人にめぐまれなかったりと、さまざまな壁にぶつかりました。こうした状況の中で東京や山形をはじめとするいくつかの地域では、日本語ボランティアのグループがネットワーク組織をつくり、知識、経験、人材といったそれぞれの財産の共有化を図り、直面している問題に協同で解決方法を模索しつつ、一方でボランティアだけでは解決できないことを、日本語教育とその関連分野の専門家の協力で解決していこうという動きが生まれてきました。

笹川平和財団では『日本語教育プログラム』の一環として平成5年度に、国内の20地域でボランティアグループが実施している日本語教育の実態を調査し、『草の根の日本語教育事例集』と題する報告書を出版いたしました。そして、この調査の延長線上で、日本語ボランティアの人々が日本語教育関連の専門家と相互に意見交換する場として、「日本語ボランティア講座」を開催することが提案されたのです。

今回、東京で開催された『日本語ボランティア講座』の記録を、山形のそれと同時に出版することにしたのは、講座の場で交わされた意見と経験のやりとりをできるだけ広く伝えたいからです。全国各地で活躍されている日本語ボランティアやネットワーク組織を通してサポートの役割を果たしている方々が、この本から少しでもそれぞれの活動のヒントや励みになる話を見出しただけなら、講座を支援した組織として至上の喜びです。また、これを契機として、全国各地のボランティア日本語教室の活動に対する理解が深まり、それ

それぞれの教室がかかえる教材の整備や、教室の確保といった具体的な問題との取り組みに支援の輪が広がることを期待いたします。

最後になりましたが、この講座と本書刊行の実現に、ご尽力いただきました多くの方々に心からお礼申し上げます。日本語ボランティアのために、快く講義を引き受け、原稿化をお手伝いくださった講師の方々、文字通り手弁当で、講座の運営から編集まで幅広い雑事をこなしてくれたボランティアのみなさん。そして、企画の段階から多くの点で助言をくださった日本語教育プログラム専門家委員会のメンバーなど多くの方々との協力がなければ講座の成功もこの本の完成もなかったでしょう。

本書は東京日本語ボランティア・ネットワークの方々、および日本語教育ボランティア講座編集委員会の共同作業で進められました。東京日本語ボランティア・ネットワークは、日本に住む外国人が日本での生活の中で少しでも不自由がなくなるようにと、日本語教育だけでなく、さまざまな生活支援活動をされています。こうした人たちの不断の努力がいくらかでも本書の中で実り、培われてきた知識と経験がひとりでも多くのボランティアの共有財産となる一助となれば幸いです。

いま！ 日本語ボランティア

日本語ボランティア講座（東京）

はじめに（笹川平和財団）

2

目次

日本語ボランティア講座ができるまで（東京日本語ボランティア・ネットワーク） 10

誌上講座

「ボランティアによる日本語指導について」 15

『新しい価値を創造する日本語教室』 ……西口光一

社会の中での日本語教室の存在とは何かを考える

「共に学び合うボランティア活動とは」 25

『ボランティア活動を通して自分自身を変えていく』 ……木下理仁

ボランティア自身が考える「困ったボランティア」とは？

「日本語教授法A」

『日本語を教えるということ』

……元橋富士子

33

いいところは残し、悪いところは捨てる勇気が自分だけの授業空間をつくる

『教科書を教えるな、教科書で教えろ』という意味』

生きた会話やあいづちを重視しよう

『なつとうを食べたことがありますか』

実際に使われる状況を想定した教授法の提案

45

「労働相談窓口からみた外国人」

『ひとつ、ふたつ、みっつ』の次は「よっつ」？』

……金子雅臣

51

日本人的感觉と外国人の常識のあいだに横たわるギャップ

「ボランティア日本語教室の運営」

『しっかりしたボランティア組織をつくる』

……伊藤美里

59

プロフェッショナル・ボランティアとは？ボランティア組織に必要な4種の神器

「日本語指導法B」

『学ぶ人』

……山田 泉

67

日本語を学ぶ人とはイコール外国人と思っていませんか

『じゃがいもの友達』

じゃがいもを使った仮想授業の実験

75

『ボランティアは「未熟な専門家」ではない』

ボランティアとは「免許もないのに治療する医者」なのか

83

「移住とストレス」

89

『日本に嫁いだ女性たち』

……桑山紀彦

環境適応過程で外国人花嫁たちがぶつかる大きなヤマ

「異文化間心理学」

97

『常識の中にある思いこみ』

……原裕視

異文化環境に『溶け込む』ことは本当に必要なのか

『異文化間学習にひそむ落とし穴』

105

異文化学習の難しさとボランティアの活動範囲を考える

「外国人の人権」

115

『権利と法、日本人と外国人』

……川添利幸

日本に住む外国人の人権とは何か？それは守られているのか？

「音声の指導法」

125

『「発音の問題」の多くは発音の問題ではない』

……川口義一

発音が悪いことが本当にコミュニケーションを妨げるか

『フロンティアをとらえるのが発音指導』

135

ひとつひとつの音より、言葉全体の流れが意味を伝える

「押し上げる教育」

143

『見下ろさず、詰め込まず、下から押し上げる』

……久場良宣

意識や希望をくすぐって、そして押し上げる

「中国帰国者の定着問題と支援体制」

『苦悩と困惑から垣間見る現実』

さまざまな事情をかかえる中国帰国者の現実と支援のあり方

……小林悦夫

151

パネルディスカッション

『ボランティアの状況に合った活動／指導方法の可能性や

そこで使われる指導技術について』

……西口光一・元橋富士子・山田泉

161

上手に教えるには、多様なニーズに応えるには？ボランティアが考える

●パネルディスカッション

東京日本語ボランティア・ネットワーク

168

相互に学び合う場として、講座を育てあげたい

講座を開くために

●人、場所、資金のこと

●カリキュラムの作成について

175

付録

●講座を開くための10のヒント

……豊島直人

188

●全国の国際交流協会一覧

●おわりに 中田紀子

●この講座にかかわった人たち

200

204

日本語ボランティア講座が広がるまで

東京日本語ボランティア・ネットワーク

東京で「日本語ボランティア」の活動が世に知られるようになったのは、1980年代の初め頃だと思います。もちろん当時は外国人の住む所も港区、世田谷区など限られており、活動グループもあまり多くなかった。しかし、バブルの影響が1990年代に入るとあらゆる所に外国人の姿が見られるようになり、それに促されるように各地にボランティア日本語教室が生まれてきた。（東京日本語ボランティア・ネットワークの団体会員の4分の3は1990年以降に活動を始めている。）

このように各地で独自に活動を進めてきたグループ同士は、たまに後発グループが先輩グループに助言を求めることはあっても、ほとんど横のつながりをもたなかった。しかし、問題がなかったわけではなく、各グループとも情報を求めていた。特に、遠方から入会を求める外国人が来たりすると、もっと近くにある教室を紹介できないものかと悩んだ。

こうした中で、1993年11月に開催された東京ボランティア・センター主催「93ぼらんていあ・めっせ 東京」の分科会のテーマに「日本語教室」が取り上げられたことは、時機を得ていた。東京および近郊からの200名を越す参加者を迎え、非常に盛り上がったところで、ネットワークの結成が提案された。そして、同年12月6日、東京日本語ボランティア・ネットワーク（TNVN）が発足、東京ボ

ランティア・センターに一隅を拝借し、事務局を開いた。

TNNVは、情報交換、日本語ボランティアの資質向上、そしてボランティア日本語教室の社会的認識を高めることを活動目標とし、「ボランティア日本語教室ガイド」およびニュースレターの発行、交流会の開催などを計画した。特に日本語ボランティア資質向上のための講習会は、不慣れな土地での生活に不自由している外国人、中国帰国者、日系人たちを隣人として支援するため、言葉の問題だけでなく、相手の立場を理解する助けとなる知識も学べる講習会を実施することとした。

1994年春、笹川平和財団(SPF)より日本語ボランティアと日本語教育研究者および専門家との相互理解を深め、お互い勉強しあう講座の実施を委託したいとの申し出を受けた。実際のところTNNVはまだスタートしたばかりで、経験の乏しいスタッフがこれだけ大きなプロジェクトを引き受けることは冒険だという声もあったが、一方、TNNV会員が講師を務め、実験的に開催してみた日本語ボランティア講習会(184ページ表1参照)の参加者たちの意気込み、講習会にかける期待は無視できないものがあつた。それで、TNNVスタッフの中ではかなり討論が必要ではあつたが、引き受けなければならぬと結論を出した。

まず講座内容に関しては、SPFの専門家委員会(TNNVスタッフはオブザーバーとして参加)で検討されたことを受けて、コーディネーターの西口光一氏が日本語教授法と相互理解のふたつの部分からなる講座のプログラムをつくった。また受講者は、SPFからの意向で、東京の各地域で活動しているボランティア日本語教室のリーダー20人とし、講師と受講者が共に学びあえる場をつくることが期待された。しかし、その当時でもTNNVには70程度の団体が所属していたので、その中から20人を選ぶことは難しかった。それで検討の結果、日本語教授法講座は話し合いの部分をも多く取り入れるのとことで20名に限るが、相互理解講座は講義形式が多くなるため50名まで受け入れ、その上、代理出席も可と

した。このこと毎週名簿つくりに追われる受講者担当の苦労をさらに増やすことになったが……それから、TNVN賛助会員のKDD国際電信電話株の提供で会場が決まり、TNVNスタッフからも6人の実行委員を選び、プロジェクトはスタートした。

それからは委託契約、山形県から沖縄県にわたる講師の方々との交渉、参加者の募集、会場のセキユリティーのための毎週の名簿づくりなど、慣れぬことばかりで要領も悪く、不手際も多々あったことと思う。コーディネーターの西口氏をはじめ、講師の皆様、また会場の準備など仕事を返上して協力してくれたさつたKDDの皆様には、迷惑をおかけしたものと反省するともに、たいへん感謝している。

講座が終了したあとには報告書づくりがあり、特に会計報告は領収書の整理から、スタッフの交通費の計算まで細かい作業が続く、担当者かなりのハードワークを強いられたようだ。すべての部分で助言を惜しまなかったSPFの担当者の方々にはお礼を申し上げたい。

また、6人の運営委員で全て実行したわけではなく、TNVNのスタッフは全員巻き込まれたといっている。

とはいえ、確かにこれらの苦労はその後の講座を開く時、非常に役に立っている。このおかげでTNVNは大きな財産をもてたと思う。

上 誅

講座

ボランティアによる日本語指導について

新しい価値を創造する日本語教室

西口光一 講師

東京日本語ボランティア・ネットワークの主催、笹川平和財団の共催で、KDDの方からは会場をご提供いただくという形でこの講座の開催が実現したことは本当に素晴らしいことだと思います。今回を含めて全部で20講座あるわけですが、まずこの講座の主旨をお話しておきたいと思います。ひとつは、この講座では、講師の方からみなさんに情報や考え方を一方的に伝えるということではなくて、逆にみなさんの方からも提供してもらいたい。講師と受講者間で、両方向に情報や意見の流れがあるべきだと思っています。もうひとつは、みなさん同士の間でも情報、意見の交換を行うという受講者同士の流れがあつてしかるべきだと思っています。わたしは「RICH」という言葉が好きです。これは何も「金持ち」という意味を表すのではなく、「(情報が) 豊かである」というような意味もありますから、この講座の場がRICHな場になるようにしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

これから約2時間お話しするわけですが、これが最初の講座ですので、前半では「日本語ボランティア講座」全体の内容についてお話しした後、みなさんにこれまでの活動を振り返って「日本語教室」についてブレインストーミング(集団思考)してもらいたいと思います。後半は、ごく最近の日本語教授法の歴史について触れまして、それをコンテクスト(背景)としてボランティアによる日本語指導とは何なのか、そんな話をしたいと思っています。

日本語ボランティア講座のテーマ

いま、一枚資料をお配りしました。それについて話をしたいと思います。「日本語ボランティア講座の内容」ということで、講座を開くにあたってこういう目的が達成されればいだろうという4つの柱があげてあります。そして、それぞれをさらに細分化した項目があります。基本は講座全体を通してこれ